

首都医校「心理学」「コミュニケーション演習」（1年生）授業実践報告

森下, 優子
奥羽大学薬学部

<https://hdl.handle.net/2324/6632456>

出版情報：オンライン授業の地平：2020年度の実践報告，pp.109-109，2021-04-30．雷音学術出版
バージョン：
権利関係：(C) 2021 The Author(s).



1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は後期に、理学療法、作業療法、柔道整復、鍼灸、看護学科の全 10 クラスに行われる対面授業であった。

「心理学」については、7 回もしくは 15 回で、医療従事者をめざすにあたり、医療現場で応用できること、かつ国家試験の出題範囲を理解することを目的とする項目で構成され、心理学理論、概念の講義と学生が体験できる心理学実験とで展開するものであった。毎回の授業は、当日、文献資料やスライド資料を配布し、授業終了時、本日の学びや授業中に聞きそびれた質問などを記述したリフレクションシート(A4/1 枚)を提出してもらい、次の授業に全員に反映させていた。「コミュニケーション演習」も同様であった。

評価については、リフレクションシートと授業への参加度と定期試験(筆記)の総合点とした。

「コミュニケーション演習」については、7 回もしくは 15 回で、前半は医療コミュニケーションの基本理論と技法、後半はアサーションの理論と技法の習得で構成され、メンバーを変えながらロールプレイやグループ、全体ワークを行う。

評価については、「心理学」と同様だが、定期試験は実技と筆記であった。

しかし、学校から前期に引き続きオンライン授業の継続の決定がされ、各学科からの指示により形式が定められた。4 学科は、Google・Classroom を使用したオンデマンド型オンライン授業、1 学科は対面授業日と ZOOM を使用したオンライン授業日を組み合わせたブレンド型形式となった。

オンデマンド型オンライン授業では、後期初めて担当するクラスについては、開講前に、オリエンテーションを対面で行ない、講座の導入を行った。そして、授業の時間割の開始時間に合わせて、Google・Classroom 上にアップロードした講義動画(30 分から 60 分と関連するコラム的な短い動画を 2~3 本)と必要資料(著作権に注意して)を配信した。毎回、当日の講座の受講の仕方など、Google・Classroom にアップし、リフレクションを提出して出席とした。リフレク

ションに記述された質問の回答は Google・Classroom に、A4/1 枚程度に語り口調で書き、個人的な質問はダイレクトメールを使用した。重要な伝達事項は一斉メールを使用した。「コミュニケーション」については、ロールプレイの代わりに 1 週間日常で実践し、次回講義に実行レポートを提出、個々人の疑問点不明点などを解決するという構成にした。

ブレンド型授業では、対面授業の時にワークに徹し、ZOOM の時には理論説明とブレイクアウトルームを使用、復習と欠席者のために講義動画を提供した。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

受講者の反応は、リフレクションに記述された感想から報告する。講義動画の視聴は、何回も見られ短い動画が息抜きになった・質問は多くの内容と語り口調により、対面時よりおもしろかった、すでに他科目で筆者との関係構築ができていたクラスからは対面と大差ない・個別質問のやり取りにより自身を見つめなおせた、自信が持てたという声が 8 割をしめた。

筆者から鑑みると、時間割通りに受講した学生の方が断然成果が高かった。ブレンド型を受講した計 80 名は試験で全員高得点を出し、対面・ライブ・動画提供の組み合わせは学習効果が高いと考える。本稿では紹介していないが、大学 3 年生 100 名の授業において、対面と動画の提供を試みたが試験は高得点を獲得した。今後対面授業の際も動画の提供は有効と言えるであろう。課題は、伝達事項に気がつかない学生も 1 割いたので、クラス毎に Slack や LINE 等を組んで、伝達のみならず意見交換などできるツールが必要と考える。